

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200052		
法人名	株式会社マウントパード		
事業所名	グループホームはなみの家		
所在地	千葉県千葉市花見川区大日町1386-2		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町村受理日	平成28年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成27年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居様が安心して穏やかに生活できる環境作り。 ・ホームの広い芝生の庭を利用して、餅つきやバーベキュー等のイベントを地域の方々やご家族と協力して行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの理念は『ずっと住みたい家』であるが、今年度は具体的にどのような介護サービスを提供したらよいか、職員と話し合った結果を3項目にまとめ、理念と共に玄関に掲示した。運営にあたっては常に地域、家族、市町村との協力関係を大切にしている。花火大会や餅つきなどのイベントは、広い庭とウッドデッキを利用して、地域の人や家族の参加でにぎやかに行われている。また、運営推進会議で「旬の果物を出してほしい」という意見が出れば、ホームが食材業者に交渉して増やしてもらう一方、家族からも果物の差し入れが増えるなど、ホームと家族が協力して利用者を支えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆の見える所に理念を掲示して共有を図っている。フロア会議の際に判断に迷った時に理念に立ち返り、判断基準としている。	ホームとしてどのような介護サービスを提供すればよいのか具体的な指針が必要だと考え、基本の理念とは別に職員アンケートをとって3項目にまとめた。これらは職員にとってケアを行う上での判断基準となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、防災訓練、餅つき大会の参加等で交流している。	地域との交流は日常的に行っている。小学校で開催される地域のサークルの交流会に利用者も参加しており、将棋の指導をしたこともある。また、地域の人が防災の見回りをしてくれたり、さまざまな相談を受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでのイベントにお招きした時、又は地域のイベントに参加した時に説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事や現在の状況を報告し、意見を伺っている。又、他施設での取り組みをアドバイスしてもらい、サービス向上に活かしている。	隔月に会議を実施しているが、年2回は家族会も兼ねて開催している。民生委員、自治会長、地域包括支援センター、利用者も参加しており、活動報告だけに終わらず様々な意見、提案が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して包括支援センターと連絡を取り、事故報告の事例が発生した時には高齢施設課と連絡を取り、アドバイスももらっている。	市町村の担当課には報告、相談を日常的に行っている。新規に入居があった時には担当者が様子を見に来ることあるなど、連絡を密にしている。また、地域包括支援センターからは運営推進会議に参加がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議等で話し合い、身体拘束をしないケアの実践をしている。現在玄関の施錠をしているが、必要な案件が解消次第、施錠しない方向で検討している。社内研修で研修を行っている。	拘束は絶対しない方針としており、内部、外部の研修に参加し、会議等を通じて職員間で共有している。玄関の施錠についても、族会で説明しており、状況に応じて対応していくこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないように、フロア会議等で全職員に徹底している。社内研修で研修を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階では該当者がいない為、今後必要に応じて活用し、支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に見学して頂き、不安や疑問点があればその都度説明し、解消してから契約をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時等で意見、要望を随時聞いている。	家族の訪問時のほかにも、家族会、運営推進会議などで家族や利用者の意見を聞くようにしている。また、アンケートを取って、意向を把握したこともあり、出された意見については反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロア会議、リーダー会議、ホーム長会議で意見、提案を聞く機会を設けている。	定例の会議では管理者は職員の発言、発表を促し、意見の把握に努めている。新任リーダーを中心にSNSを利用した情報共有を始めたが、管理者は繁忙なこともあり、職員との会話が不足気味であると考えている。	職員全員の面談を行うなど、職員の意見をさらに把握する機会があるとういと思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との1対1の面談や、電話等で随時話を聞き、各自の要望を考慮するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、リーダー研修等の内部研修の実施。又、外部研修にも順次参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との研修、食事会等で交流し、意見交換する中でお互いの向上を目指している。社外の勉強会等に参加し、主催者や参加者と交流のきっかけを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時にご本人と会話し、訴えを聞く機会を設けている。また、出来れば入居前にご本人にホームへ来て頂き、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に納得の頂けるまで話を聞き、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学や、事前の面談を通じて必要な支援を見極めている。他のサービスの活用も含めたサービス計画も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中、家事など職員と一緒にしている。又、職員が知らない事を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント時などにご家族にも協力して頂き、支援に参加してもらえるようにしている。病院受診の際に出来るだけご家族にも対応してもらい、現状を把握してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の上で面会、電話、手紙等で関係が途切れないように努めている。	これまでの関係性が継続できるように、年賀状を出す際に宛先の確認を手伝うなどの支援をしている。また、友人の訪問を歓迎し、知人からの電話を取り次ぐなど、馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで、入居者様同士の関わり合いが円滑にいくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談に来て頂けるような信頼関係作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向は個別に聞いている。意思表示が出来ない方には日々の様子、表情から察知したり、ご家族との話し合いで把握するようにしている。	利用者の思いや意向は入浴、トイレ介助、居室で一对一の時に聞くことが多い。聞き取った内容は個別の記録や業務報告書に記載し、情報の共有を図っている。希望の多い外食などは全員で行けるよう計画を立て実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前はもちろん、入居後にもご本人、ご家族から話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態を把握、共有できるように記録、申し送り、会議等を活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のフロア会議で課題のある方を中心に全入居者様のモニタリング、カンファレンスを行い、ご家族、医師の意見を参考にしながら介護計画を作成している。	介護計画書は利用者から聞き取った意向や要望、家族の意見、追記されたフェースシートのほか、日々のカンファレンスでの職員の気づきなどをもとに作成している。見直しは短期目標の設定期間に沿って行っている。また、介護計画書はフロア会議で共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や、申し送り記録等に詳細に記録して、職員間で情報共有、活用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望があれば個別に外出や通院等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出来る限り参加している。又、近隣の小学校のサークル活動に入居者様が参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を第一に考え、随時相談しながら往診医、主治医と連携をとっている。	かかりつけ医はホームの提携医に変更した利用者も多いが、従来からの医療機関に継続して受診している人もいる。受診対応は家族の協力を得ており、ホームは受診記録で情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当社の看護職員と密に相談、連携をして適切な医療を受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約医療機関との連携は出来ており、入院の際は早期退院に向けて情報交換や相談を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明すると共に、必要が生じた場合は常に話し合っ希望に沿った支援が出来るようにしている。	重度化や看取りの指針は整備されており、契約時に家族に説明している。過去に看取りの経験もあり、職員の勉強会も行っている。提携医や訪問看護師とはいつでも連絡が取れるようになっており、利用者と職員の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、看護師による研修を受けている。また、外部研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を定期的に実施している。	今年度は新採用の職員もあり、同じ場面の訓練を2回行った。管理者は、できるだけ多くの職員が訓練を体験できるように回数を増やしていきたいと考えている。また、今年度は自治会の防災訓練に利用者と共に参加するなど、地域との関係づくりにも取り組んでいる。	今後は様々な場面を想定した災害訓練に多くの職員が参加できるよう期待したい。また、近隣との協力体制についても具体的に話し合うことが必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた言葉かけや対応によりプライバシーを守れるよう会議等で話し合い、徹底するように努めている。	利用者への声かけに関する研修を行い、画一的ではない一人ひとりに合った声かけに努めている。利用者と呼ぶ際には「さん」づけが基本であるが、家族の意見なども参考に本人の反応を見ながら親しみを込めた呼び方をする場合がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合ではなく、入居者様が自己決定できるようにその都度伺うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞くだけでなく、日常生活を観察し、一人一人の生活のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが出来るように定期的に外出を企画したり、日常生活でもおしゃれが出来る様な雰囲気作りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のADLを見極めたうえで食事の準備、後片付け等を一緒に行っている。	食事は食材会社から配達された材料で職員が調理し、提供している。メニューは決まっているが、職員がアレンジをすることも可能で、利用者の意見を取り入れることもある。利用者の状態に応じて後片付けなどに参加する人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた食事の提供が出来る。食事量、水分量は観察、記録し、異変時は主治医、看護師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、状況に応じて声掛けをし、自分でできない部分のみ介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄から一人一人の状態を把握し、声掛けやトイレ誘導により、出来るだけおむつ等の使用を減らせるように支援している。	夜間も定時に職員が声かけ誘導するなど、できるだけ、トイレで排泄ができるように支援している。トイレ誘導の際は、周りにも配慮して声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師と相談しながら、個々に応じて水分摂取や運動等の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は必ずご本人の希望を聞いている。自然な声掛けになるように個人のタイミングや言葉かけに注意している。	入浴は一日おきである。1階のユニットにはリフトの設備があり、利用者の状態に応じて利用している。また、入浴を好まない利用者にもスムーズに入ってもらえるよう、声かけや入浴の時間帯を工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息はご本人のペースでとってもらっているが、夜間に一番安眠できるように日中の運動を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師と連携を密にしており、処方薬の理解に努めると共に毎日の服薬確認、状態変化の記録を録っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態に合った役割をもって頂いている。散歩、折り紙、カラオケ等気分転換が図れる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様に希望を聞いて、外出、外食等を行っている。ホームでの対応が難しい場合は希望が実現できるようにご家族にも協力して頂けるよう対応している。	外食やお花見などで外に出る機会を作っている。家族と一緒に墓参りに出かける利用者もいる。また、1階にある広いウッドデッキは自由に出入りでき、恒例のバーベキューや餅つきなどにも使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持ちたいという気持ちを大切にし、一人一人の現状に応じて所持、使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、関係者に相談の上、希望が叶えられる様に状況に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激の配慮はもちろんのこと、季節に合った植物、野菜、飾り付け、手作りカレンダー等の設置をして、安心して過ごして頂けるように配慮している。	利用者が一日の大半を過ごすリビングは光や温度、湿度、音などに配慮し、居心地良く過ごせるよう努めている。また、職員手作りの掲示物や利用者と一緒に作った作品、生花などで季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでくつろげるようにソファを設置する等、自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物、好みの置物や植物を持ってきて頂き、設置したり飾ったりして居心地良く過ごせる居室になっている。	各居室は清掃が行き届き清潔である。各々馴染みの家具や写真、置物、鉢植えの花を置くなど、その人らしく居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置等のバリアフリー構造、角のない造りにより安全を確保しつつ、車いすでも自立した生活が送れるようになっている。		